

環境コミュニケーション

真摯な姿勢で、
リコーグループの目指す姿を
情報開示しています。

リコーグループは、お客様、近隣住民の方々、社員、行政や取引先様、その他の企業の方々など、多くのステークホルダー(利害関係者)をグリーンパートナーと考え、リコーグループの目指す姿や活動を通じて得られたノウハウなどをお伝えすることにより、社会全体の環境負荷削減に貢献して行きます。そのためグリーンパートナーの方々に役立つ情報開示と2ウェイコミュニケーションを心がけると共に、グリーンパートナーの方々からのご意見を、グループ全体の環境経営活動に役立てています。

ステークホルダー(利害関係者)と情報開示手段の関係

対象 =	環境報告書	ホームページ	環境ラベル	環境広告	講演	展示会
お客様	●	●	●	●	●	●
地域社会・住民	●	●	●	●	●	●
取引先	●	●	●	●	●	●
株主・投資家	●	●	●	●	●	●
環境専門家	●	●	●	●	●	●
企業の環境担当者	●	●	●	●	●	●
行政	●	●	●	●	●	●
NPO	●	●	●	●	●	●
学生	●	●	●	●	●	●
社員	●	●	●	●	●	●

環境報告書

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年継続的に報告書を発行してきました。1999年1月に発行した1998年度の報告書以降は、日本語版・英語版を用意し、幅広いグリーンパートナーの方々に情報開示を行うと共に、FAXアンケートで2ウェイコミュニケーション^{*}を図ってきました。各事業所や関連会社でも環境報告書を

発行しており、リコー福井事業所、リコーユニテック、東北リコーに加え、2001年度はリコーインダストリーフランス、リコー厚木事業所でも発行しました。また、各事業所での発行を推進するために、2001年度に「サイトレポート作成ガイドライン(日本語版・英語版)」を作成し、リコーグループ内のデータベースに掲載しました。

^{*} 日本語版のみ。アンケートの結果は83ページを参照。

報告書の発行部数

	表 記	発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版	1999.1	26,200	30P
	英語版	1999.1	500	
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版	1999.9	51,300	32P
	英語版	1999.9	8,375	
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版	2000.9	45,950	60P
	英語版	2000.12	6,800	
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版	2001.9 (2002年6月 30日現在)	20,390	74P
	英語版	2001.12	7,000	



各事業所や関連会社の
環境報告書

環境ホームページ

リコーの環境ホームページは、最新の活動事例や小中学生向けのECO TODAY^{*1}も閲覧できる充実した内容になっています。ECO TODAYは、リコーと横浜デジタルアーツ専門学校の学生が共同で制作したページで、身近なことを糸口に環境問題をわかりやすく説明すると共に、その問題に対するリコーの取り組みも紹介しています。2001年度は、環境ポータルサイト「環境goo^{*2}」の優秀賞および「エコWeb大賞^{*3}」の最高

賞を受賞しました。ホームページのアクセス(ページビュー)数は1,070,985件で、昨年度より約40万件増加しました。メールのやりとりから大学生・高校生とのミーティングを開催するなど、積極的な2ウェイコミュニケーションも図っています。



リコーのホームページ

^{*1} <http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday>
^{*2} <http://www.eco.goo.ne.jp/>
^{*3} <http://www.ecology.or.jp/>

製品の環境負荷情報の開示

リコーグループは、タイプ・タイプ 環境ラベル、およびタイプ 環境宣言で製品の環境負荷情報を開示しています^{*1}。グローバルなグリーン購入の気運が高まっている現在、製品の環境負荷情報は、お客様が環境負荷の少ない製品を選ぶ際に、重要な判断材料になります。そのため、情報の正確性はもちろん、製品の発売と合わせたタイムリーな情報開示の必要性が高まってきました。リコーグループは1999年度、日本で初めて、第三者認証(スウェーデンBVQI)のもとにデジタル複写機 imagio MF6550のタイプ 環境宣言^{*2}を行い、2001年度にはファクシミリFAX ML 4500でも認証を取得しました。また(社)産業環境管理協会の「エコライフ 環境ラベルプログラム」でも、デジタル複写機やプリンターの環境負荷情報の開示を予定しています。今後は、製品の発売に合わせたタイムリーな情報開示を可能にするために、機種ごとではなく、データ算出システムそのものの認証方法の確立など、世界に向けて新たな仕組みづくりを提案して行きます。

^{*1} 41ページを参照。
^{*2} 製品のライフサイクル全体における定量的な環境負荷情報の開示。
http://www.ricoh.co.jp/ecology/label/type3_2/index.html

環境広告

リコーの環境広告は、グリーン購入を推進する自治体や企業の方に製品の環境性能を説明したり、さまざまな立場で環境保全を推進する方々に役立つと考えられる事例を紹介するなど、社会全体の環境負荷削減に貢献することを目的に制作されています。2000年度からは、リコーがNPOとのパートナーシップで進めている森林生態系保全プロジェクト*1を事例に、生物多様性の保護の重要性を訴える雑誌広告も展開しています。また、2001年度からはリコーハンガリー*2でも環境啓発広告をスタートさせました。

*1 61ページを参照。

*2 44ページを参照。



製品の環境性能をお知らせする広告(上)
環境保全に役立つ事例を紹介した広告(下)



生物多様性の保護の重要性を啓発する広告(上)
リコーハンガリーの環境啓発広告(下)

環境講演

リコーグループでは、これまでも経営トップ層自らが、積極的に講演を行い、環境保全の重要性や環境経営の考え方についての情報発信を行ってきました。ほかにも、企業での講演会や学会、シンポジウムなどに、社会貢献の立場から積極的に参加し、グリーンパートナーとのコミュニケーションの場を広げています。

主な環境講演(リコー)

項目	数
1999年度	43
2000年度	66
2001年度	50

リコー社会環境本部が開関わった主な項目を集計、この他に社内各部門で行っている活動があります。

展示会

リコーグループは、日本の「エコプロダクツ」や欧州の「セビット」などの展示会で、環境活動の紹介や、製品の環境性能のアピールを積極的に行っています。エコプロダクツ2001では、「imagio Neoシリーズ*1」「リライタブルプリンター&ペーパー*2」などが注目を集めました。

*1 32、47、48ページを参照。

*2 32ページを参照。



エコプロダクツ2001



セビット(ドイツ)

社会からの評価

リコーは、英国のビジネス紙「フィナンシャルタイムズ」が毎年実施している「世界で最も尊敬される企業(World's Most Respected Companies)調査」の「CEOが選ぶ環境保全に優れた会社」部門で、世界第7位にランクされました。米国の投資リサーチ会社「イノベスト・ストラテジック・バリュー・アドバイザーズ社」が実施した環境格付けの写真・事務機器部門では最高評価「AAA」を受け、評価対象11社中の第1位にランクされています。ドイツのエコム社は、環境側面および社会・文化的側面からの調査・格付けを行い、OA機器・家電部門の16社中第1位にリコーをランクしました。日本では、日本経済新聞社の「第5回環境経営度調査」で第2位にランクされたほか、投資家向けの情報開示に優れた企業を対象とした東京証券取引所の「第7回上場会社ディスクロージャー表彰」を受けました。また、朝日新聞文化財団が実施している「企業の社会貢献度調査」でも、2000年度の大賞を受賞しています。



「フィナンシャルタイムズ」(2001年12月17日付)